



# 下和泉小だより

横浜市立下和泉小学校

校長 船木 淳

短い秋を終えて初冬の澄んだ青空の下、校庭からはいつものように元気な子どもたちの声が響いています。一雨ごとに白の割合が増える富士山も、寒さが深まるにつれその雄大な姿が鮮やかに浮かびあがるようになってきました。その頂から見える景色はどんなものなのでしょう。

10月30日、日光修学旅行2日目。

この日は、子どもたちが計画した戦場ヶ原・小田代ヶ原のハイキングです。朝8:30に退館式を終えたら、12:00に集合するまで、すべて自分たちで判断し世界遺産の自然や景色、コミュニケーションを楽しみながらゴールを目指します。

この活動を実現するため、4月から計画的にグループ活動の経験を重ねてきました。まずは下飯田駅集合。続いて横浜市歴史博物館集合。さらに鎌倉校外学習では、1日の活動すべてを自分たちで計画、アレンジしました。史跡を訪ね小町通りを散策して、チェックポイントで教員の確認を受けて、出発から解散まで子どもたちだけで過ごしました。私たちはその間、ドキドキし、心配し、それでも子どもを信じて待っています。

当日の最低気温は0度。少し寒いぐらいのさわやかな秋晴れに恵まれた、最高のハイキング日和でした。しかし、グループによっては10kmを超えるという長い行程では、予想のつかないことが多々起きてきます。3時間以上取っていた活動時間も足りなかったようで、予定どおり12:00に竜頭の滝に来れたのは1グループだけでした。集合時刻に間に合わないことを気にしつつ、たくさん子どもたちが到着した安堵の表情を浮かべ集まってきましたが、その多くは計画どおりに弁当を食べたり、茶屋でのおやつタイムをとったりすることができずにいました。後日グループのリーダーに話を聞くと、「とにかく遅れていたんで、食べることも間を優先した」と言っています。食事のできていなかったグループは、到着後にお弁当タイムをとりました。

そんな中、計画どおりに食事とおやつタイムをとってきたグループが3つありました。当然集合時刻からはかなり遅れています。グループリーダーの一人は、「道が合っているか不安だった」「間に合っていないのがわかっていて、とても焦っていた」「でも、先生がいて、ほかのグループもいたので大丈夫だと思った」と言っています。このグループは活動全体の最後尾にいたので、教員が一人同行していました。これは安全を確保するうえで最低限必要な支援です。このような状況で最終グループに吸収された3グループでコロニーができ、不安がありながらも教員と仲間のいる安心感で足を進めていたのだと想像します。

これらのグループ活動で、何が正解だったのかを問おうとしているわけではありません。一人一人が何をどうすべきか考え、相談し、判断し、行動する。その過程に大きな価値があり、それを6年生は実践したということです。本気で取り組み、考え、活動してきた子どもたちには、これまで見えなかった新しい景色が見えていることでしょう。同時に、子どもの活動や思考の決断場面で、大人の存在が大きく影響するのだと改めて実感しているところです。

人がよりよく生きていくうえでその原動力となる自己肯定感は、「人から言われたことを言われたとおりにやる」ことでは育ちません。自分で考え、判断し、決めたことをやり遂げることで培われる成功体験を重ねていくことでしか、本当の自信は育たない。大人は子どもたちを信じ、待つ。究極のところ、それしかできません。そしてその先に、本気で取り組んだ者にしか到達できない領域があり、見たことのない景色が広がっている。

子どもたちはあと4か月で進級します。それぞれの学年の成長段階に応じて、大人の存在をさりげなく消していくことも必要だと思う師走が始まります。平穩に過ぎていく令和5年と温かく見守っていただいている地域・保護者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。